令和８年11月

魚津市定例記者会見



日時：令和８年10月29日(木)　午後１時30分～午後２時10分
場所：市役所 第一会議室
報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞社、
ＮＩＣＥ　ＴＶ、ラジオミュー
市当局出席者：市長、財政課長、企画広報室長

１　市長からの発表事項

（１）　令和９年度魚津市行政経営方針（企画広報室）

本市ではこれまで、社会的情勢を踏まえ財政健全化に取り組みながら、地域交通やコミュニティセンターなどの地域の拠点整備、小学校給食の無償化、災害対応など市民の暮らしに寄り添った取組を進めてまいりました。

人口については、昨年度策定した魚津市人口ビジョンで、「令和12（2030）年には、36,000人程度、令和42（2060）年には、21,000人から24,000人程度まで減少する」という見通しを立てています。こうした見通しを踏まえ、第５次魚津市総合計画、第12次基本計画の２年目となる令和９年度は、人口減少の進行を和らげる「緩和」の取組を粘り強く続けながら、現在より少ない人口でも活力ある社会・経済を構築する「適応」の取組に本格的に踏み出します。人口減少の「緩和」に向けては、地域産業の活性化を重要な柱の一つとして取り組んでまいります。一方、「適応」に向けては、人口減少していく局面においても、市民生活に欠かせない機能を守りながら、デジタル技術の活用などによる行政サービスの効率化と公共施設の再編を進めていかなければなりません。その中には、公共施設の使用料や上下水道料金の見直しなど市民の皆様に一定のご負担をお願いする取組も含まれております。さらに、激甚化・頻発化する災害について、しっかり対応を進め、安心して暮らし続けていけるための地域をつくってまいります。

※以下資料に基づき説明

（２）　魚津市中期財政計画（財政課）

基本的な考え方については、令和９から13年度までの５年間の計画ということになります。（概要版に基づき説明）

①市税の推移については、65～68億円前後で推移しています。②の国・県支出金の推移については、コロナ対策や物価高騰支援という形で国からの交付金が、一定程度続いておりますので、近年、大体46億円後半から50億円ぐらいで推移しています。③の義務的経費の推移については、真ん中の薄い黄色の扶助費が、高い水準で推移しています。④の投資的経費の推移については、令和４～６年度までででコミュニティセンターや室内温水プール等の大型事業がありましたので、少し伸びが見られます。

基金の状況については、計画的な積立を行っており、直近、令和７年度末は、真ん中の公共施設整備基金が24億、そして緑色の財政調整基金が18億です。

財政収支見通し（令和９年度から13年度まで）については、物価や金利、人件費等の上昇要因があり、歳出は全般的に増加傾向にあり、今後もその傾向が継続するであろうと考えております。義務的経費について、コミュニティセンターや新庁舎などの大型施設整備に伴う投資的経費の増加、施設整備をするときに発行する市債が増えることにより、公債費の増が見込まれます。歳出について、令和10～12年にかけて、市庁舎の整備、大町コミュニティセンター整備、学校体育館の空調整備の年度にハード整備の増加が見込まれ、投資的経費に大きな山がきております。歳出合計の金額を見ていただきますと、令和９年度までの見込み210億円が、令和10年度には243億円、令和11年度には252億円と30億～40億円に増える見込みです。その財源として、市税の欄を見ていただくと、令和８、９年度の見込みでは、68億円前後ですが、令和10年度以降、ほぼ90億円を見込んでおります。これはタワー社の半導体工場の投資に見合う固定資産税収入の増加を見込んでのものです。地方交付税については、令和８、９年度は37億円の収入があるのに対し、令和10年度以降減少する見込みです。地方交付税の仕組み上、税収が上がるとその分下がるためです。交付税の減り方より、税収増額分の方が大きいという傾向にあります。この５年間のフレームからすれば、令和10年度以降相当額の財政支出が見込まれます。

計画的な行財政運営に向けて今後の取組については、公共施設整備基金は令和８年度末で20億円としていた目標額を上回っており、令和７年度末で24億円でした。今後、庁舎の整備費が資材費や人件費等の増によって、当初予定していたものよりも膨らんでいくと見込んでおり、少しでもその部分の財源を確保するという意味でさらなる積み立てを検討していきたいと考えております。

（３）　「アウトサイドライン」設計者ダニエル・リベスキンド氏「第37回高松宮殿下記念世界文化賞」受賞！（企画広報室）

魚津市の桃山運動公園の一番高いところにアウトサイドラインという構築物があります。その設計者のダニエル・リベスキンド氏が第37回、高松宮殿下記念世界文化賞を受賞されました。本市としても心からお祝いを申し上げるとともに市民の方をはじめ、多くの方々に、今一度このアウトサイドラインの存在を再認識していただき、また機会があれば、足を運んでいただければと思い、報告させていただきます。

※以下資料に基づき説明

（４）　大人の産業観光ツアーvol.３を開催（商工観光課）

大人の産業観光ツアーの第3弾のご案内になります。昨年度から産業観光ツアーを実施しており、今回は「魚津の水の恵みを巡る」をテーマに実施をします。

日時　11月28日（土）13時30分魚津市役所出発
※以下資料に基づき説明。

（５）　①「魚津蟹騒動」が「蟹“大(おお)騒動”」としてパワーアップ！
②ＪＲ富山駅にて大型パネルを設置（商工観光課）

魚津紅ズワイガニに特化した取組について２件ご案内します。
①「魚津蟹騒動」が「蟹“大(おお)騒動”」としてパワーアップ！して開催します。
日時等　11月14日（土）、15日（日）10時～14時、海の駅蜃気楼イベントスペース
②ＪＲ富山駅にて大型パネルを設置
設置日等　10月28日（水）、ＪＲ富山駅北陸新幹線ホームと改札階の間の中２階
※以下資料に基づき説明。

（６）　イングリッシュキャンプ開催（教育総務課）

小学校５年生以上の参加希望者を対象にＡＬＴさんのご協力をいただいて、イングリッシュキャンプ開催のご案内になります。
日時場所　11月７日（土）９時～12時　魚津水族館
※以下資料に基づき説明。

２　質疑応答の内容

〇行政経営方針の予算要求基準について

《記者からの質問》
昨年度は、重点施策と未来の暮らしを支える社会基盤の強化（未来特別枠）について、「原則として、既存事業の見直し分の２倍を要求枠とする」とありましたが、今年度の基準について教えてください。

《市長回答》
昨年度は、事業を見直し、廃止をする場合の廃止額や減額の２倍までを新しい枠として要求額として認めるという考え方でした。今年度は、重点施策等②の未来特別枠については、事業の見直しを前提に、要求上限を設けないので、ある意味自由な発想で、思い切った要求をしてくださいというものです。それ以外の政策的経費については、10%のマイナスシーリングになっており、昨年度と同じです。

〇アウトサイドラインの概要について

《記者からの質問》
アウトサイドラインの概要ついて、レッドラインのほかに教えてください。

《市長回答》
魚津桃山運動公園の一番高いところに「展望の丘」があります。「アウトサイドライン」はそちらにつくられた作品で、赤い稲妻のような「レッドライン」、丘の上まで続く遊歩道「ランゲージライン」、丘の上のコンクリートの構築物「展望塔」で構成されております。